

「平和」について

読谷小学校 五年 上原 丸乃

私は、平和という事は、誰一人傷つかなくて、みんながにこにこ笑っている事だと思えます。それに、普段やっている事も「平和」だからこそ出来ると思います。

私が「平和」について考える切っ掛けになったのは、六月二十三日に沖縄だけ特別に「慰霊の日」があるからです。

私たち家族は六月二十三日に、宜野湾市にある「佐喜真美術館」に行きました。そこに版画や壁いっばいの戦争の絵がありました。その絵は、戦争の辛さ、ひどさ、恐ろしさを表す作品がたくさんありました。私はそれを見て、「どうして戦争は、こんなに大ぜいの人の命を奪うのだらう」と思いました。

「佐喜真美術館」で特に印象に残った絵は、とても大きい絵でした。普通に立って見たら見えにくかった。たので、後ろにあつた椅子に座って見てみました。するとなぜか、鳥肌が

たちました。大きな面積を生かし、いろんな戦争の場面を表していました。もう残酷すぎて何が起きているのかわかりませんでした。たぶん、その作品(絵)を書いた人は「これが本当の戦争の恐ろしさ」という事を伝えたかったのではないかと思います。

そういえば今日は、「慰霊の日」の事をテレビで特集されていきました。実際に戦争を体験した人の話や、各地で開かれた「慰霊祭」の事を取り上げていました。やっぱり「自分

の目で見た戦争と人(体験者)から聞いた話では全くちがうんだな<sup>あ</sup>」と改めて思いました。

それから、学校の多目的ホールにある、パネルに書かれていたものが、びっくりしました。私がびっくりした事は、戦争中に犬や猫あひる。そして、バッタやゴキブリ、タニシなどを食べていたという事です。今では考えられない特を食べているから、そういう食べる事に必死だ<sup>っ</sup>。たんだと思いました。

今は、贅沢だから、食べる特を残すという事

はめずらしい事ではありません。なので私も出来るかぎり食べ物を大切にしていって、給食や朝・昼・晩のご飯を残さないように努力していきたいと思います。

今後、戦争体験者は減っていくと思います。なので語りつがれてきている、戦争の事実を次は、私たちが次の世代に話していかないといけないと思います。こんなに恐しい戦争を二度と起こしてはいけないと思います。これからも平和で明るい沖縄が続いていきますように。